

2024年度 学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

報告者 園長 加藤篤彦

I 自己評価

1. 本校の教育目標

「みんななかよし すなおなところ こんきのよさ」

2. 本年度の重点目標

- 1) 教育重点「自分を伸び伸びと表現する～アート視点から～」
- 2) 満3歳児保育と学齢2歳児の受け入れの整備
- 3) 幼児教育の質向上のための整備、工事等
 - ・教育環境の充実、よりよい保護者会実施のため、年長保育室モニター設置（第二幼稚園）
 - ・園庭環境の安全維持のため南門扉のリニューアル（第二幼稚園）
 - ・雨天時対応のため駐輪場にオーニングを追加設置（第二幼稚園）
 - ・保育室環境を整えるため老朽化した空調の入れ替え（第二幼稚園）
 - ・預かり保育送迎バス（18時前三鷹駅着）の運行（第一幼稚園・第二幼稚園）

3. 重点目標についての評価（A～D）と取り組み状況や課題

A・・・達成できた B・・・概ね達成できた C・・・達成が不十分 D・・・達成できていない

1) 「自分を伸び伸びと表現する～アート視点から～」(A)

- ・教育重点課題を具体的な保育実践に繋がられるよう研修を実施
- ・光を取り入れた遊びを展開するためのライトテーブルや自然環境とアートを繋げるコーナーを用意した。
- ・園まつり催し物にアート教室の講師を招き、ホールにて“氷の世界”を表現する園児参加型アートショーを体験した。
- ・素材や道具の研究をしつつアート遊びを実践した。その様子を学年ごとにて振り返り、保護者と共有した。
- ・学校評価における第三者評価としてのECEQ公開保育を実施した。
- ・東京都が実施している「すくわくプログラム推進事業」について武蔵野市より本園に研修依頼があり受託した。市内幼児教育施設関係者に対して、講師を迎えた講演、本園を含む実践の様子を周知した。

ア. 一人一人の教師の挑戦とアート遊びの充実

様々な種類の画材や道具、光などを遊びに取り入れ、その色の変化や質感などを子供の感性や感覚で探究することを大切にして、いろいろなアート遊びを試したり工夫したりしてきた。その一つ一つを記録し、振り返ることで、教師自身が新たな気づきや発見に出会い、今までの保育の枠を超えて遊びを広げていくことができた。

イ. とうきょうすくわくプログラムの実施

『すくわくプログラム』での「伸びる・育つ(すくすく)」と「好奇心・探究心(わくわく)」の視点と、教育重点を重ねて『色と自然』『色と鏡』『色と様々な表現』の3テーマの実践をまとめた。

ウ. 研修、実践研究の実施

教育重点をテーマのもとで学年毎に実践してきた内容は、2か月ごとに学年で振り返り、様々な素材や道具の研究につなげるとともに、夢中や没頭し、感性を働かせているのかを話題にし、次の実践に繋げていった。その取り組みは、保護者連絡アプリ“おうちえん”を通して配信し、共有するようにした。

エ. ECEQ 公開保育や武蔵野市委託研修の実施

【ECEQ 公開保育】

ECEQ（全日本私立幼稚園幼児教育研究機構による公開保育を通した教育の質向上、第三者評価システム）を利用した公開保育を実施した。

教育重点を保育見学の視点として、各学年が課題と捉えていることへのアドバイスや評価をいただいた。都内私立園の先生方や文科省、国立教育政策研究所や大学の先生方など、約 100 名の方々が来園され高い評価をいただいた。教師一人一人の自信になり、向上していく意欲や手立てを得られた。

【武蔵野市委託研修】

武蔵野市より「令和 6 年度武蔵野市幼児教育に関する専門研修」の委託を受け、『とうきょうすくわくプログラム実践研修会』を実施した。武蔵野市内の教育関係機関の方が 50 名ほど参加し、東京大学大学院教育研究科付属発達保育実践政策学センター野澤教授を招いた基調講演。本園を含め市内 3 園による実践発表を行った。事後の感想からも高い評価を得た。

2) 満 3 歳児保育と学齢 2 歳児の受け入れ整備(B)

ア. 1 クラスの開設から始めた学齢 2 歳・満 3 歳児クラスの保育は、2023 年度に 2 クラス、2024 年度はさらに 3 クラスへと増設し園児受け入れをした。また、学

年齢2歳児保育については、週2日コースと週5日コースを選択できるようにした。園バスには学齢2歳児用のシートベルトも設置し、バス通園を実施。親子登園からスタートし、徐々に日数や保育時間を増やし、段階的に丁寧に保育を行った。

満3歳児保育の実践は、幼児教育実践学会や教育研究大会にてポスター発表を行い、全国の幼児教育に関わる方々と共有し、学び合うことができた。

イ. ASDの傾向があるかもしれない未就園児に対して、親子教室として『親子ペンギンクラブ』を開設した。2期に分けて、各10回10組で実施した。

教師と親子で活動をしながら、保護者の困り感などに寄り添い、子育ての相談を受ける機会にもした。

3) 幼児教育の質向上のための整備、工事等(A)

- ・教育環境の充実や、よりよい保護者会実施のためのモニター設置(第二幼稚園)

年長クラスの教育環境として、また保護者との情報共有の手立てとしてモニターを設置した。自然物の発見やチャレンジしている姿、劇ごっこや発表など、保育中に教師が撮影した映像や画像をモニターに映し出し、遊びの共有や興味のきっかけづくり、認め合いに繋がったり、子どもが自身を客観的に見つめ、発表の仕方や劇の役割分担を工夫したりすることなどに生かしている。

保護者会では、モニターを利用し、子どもの学びや成長を伝え共有することで、教育をよりよく理解いただけるようにした。

- ・園庭環境の安全維持のため南門扉のリニューアル(第二幼稚園)

老朽化した南門扉をリニューアルし、通園バスでの登降園を安全に行えるようにした。

- ・雨天時対応のため駐輪場にオーニングを追加設置(第二幼稚園)

第二幼稚園園舎裏の駐輪場に園児や未就園児の乗り降り等、天候によらず快適に行えるエリアを広げるため追加設置。

- ・保育室環境を整えるため老朽化した空調から順次入れ替え(第二幼稚園)

近年の猛暑から、空調を適切に取り入れ、健康に保育が行えるよう十分な配慮が必要であり、空調の不調な保育室の機器を入れ替えた。

- ・預かり保育降園時に、18時三鷹駅着の園バスを運行した。

4. 総合的な評価と今後の課題

「自分を伸び伸びと表現する～アートの視点から～」を教育重点として、研修と実践と客観的評価を並行して取り組んできたことで、意識を高く前向きに挑戦した一年となった。

伸び伸びと表現するための援助や環境を見直したり、新たな素材や道具を保育に取り入れたりし

て、遊ぶ子供の姿を捉えてきた。この取り組みにより、教師自身にも新たな発見があり、保育の幅を広げてきた。園内研修ではその取り組みを共有した。また ECEQ 公開保育にてこれらの取り組みが高い評価もいただくことができた。教師自身が探究する面白さを感じることができた。

今年度は、画材を使った表現、造形表現を中心に取り組んできたので、次年度は、音や音楽、物語の表現など、視点を変え、さらにアートの保育を展開し、子供たちの感性を豊かにする取り組みへと広げていきたい。

Ⅱ 学校関係者評価

1) 教育重点

「自分を伸び伸びと表現する～アートの視点から～」

- ・子どもたちがやりたいことを実現できる環境があることを実感し、満足感があり、高く評価している。
- ・各クラスでの“アートの視点から”の様々な遊びへの挑戦や、遊びの環境（素材、道具、コーナー設定など）の用意、教師の援助（遊びに没頭する時間、ゆったりとした時間の確保、安心できる声掛けなど）について高く評価をしている。
- ・アート遊びに積極的に取り組む子もいれば、新たな素材との出会いに戸惑う子もいる。どの子もたっぷりと伸び伸びと遊べるとさらに良いと感じている。家庭ではダイナミックに絵の具を使ったり、泥だらけにしたりということは難しいため、園で実現することを願っている。
- ・いつでも、アートな遊びができる環境（スペース、コーナーなど）を用意できるとさらに良い。
- ・（ASD クラス）ダイナミックなアート活動を幼稚園で体験できることに感謝。一方で、やってよい場面、やってはいけない場面の切り分けの難しさが課題。
- ・（ASD クラス）作品展では、個々の作品は等身大のものがつくられるとよいと感じている。また、協同製作では、ASD 児クラスにおいても、話し合って一緒に作り進める手立てを用意していることを共有した。

2) 満3歳児保育と学齢2歳児の受け入れ拡充

- ・満3歳児クラスにおいても、豊かな遊びが展開されていることを評価している。

3) 幼児教育の質向上のための整備、工事等

- ・整備、工事等については、快適に利用できるようになること、安全が確保されることに安心している。
- ・園の新たな取り組み、前年度からの変更について

4) その他

- ・新たな取り組みがスタートするときには、直接、対面の連絡があると保護者にとっては安心である。
- ・一方で、配信も併用いただけるとありがたい。